

第 1 回 苫小牧市基本構想審議会 議事録要旨

【日 時】 平成29年8月24日（木）14:00～16:00

【場 所】 苫小牧市役所9階 議会大会議室

【出席者】 石田会長、佐藤副会長、古崎委員、秋山委員、後藤委員、守屋委員、高橋委員、松島委員、松原委員、本間委員、熊谷委員、長山委員、吉岡委員、土肥委員、地白委員、奥山委員、竹谷委員、飛渡委員

議 事 内 容

- 1 開会
- 2 委嘱状交付式
- 3 市長挨拶

ただいま委嘱状を交付させていただきました。大変ご苦勞をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、今日はお忙しい中、そして足元の悪い中ご出席をいただき、あらためて心からお礼申し上げます。

現在、苫小牧市では、今後のまちづくりの指針となる新たな総合計画の策定を進めているところであります。昨年度は、市民アンケートや事業所アンケートなどを行い、今年に入ってから12名からなる市民懇話会などで貴重なご意見をいただきまいりました。現行の総合計画は、平成19年に改定した基本構想、そして平成20年度から29年度までの10カ年計画である第5次基本計画からになっております。今回ご意見をいただきます新しい計画は、平成30年度からスタートするものであります。皆様には、本市における将来のまちづくりにつきまして、幅広く様々なお立場から忌憚のないご意見をお伺いしたいと考えております。

全国的に少子高齢化が加速する中、本市においても4年前から人口が減少に転じておりまして、大きな時代の転換期を迎えつつある今日であります。経済活力を維持しながら、市民生活をしっかり守っていくためには、過去の延長でこれからを考えるとということではなく、新たな戦略に基づいた挑戦をしていかなければならない時代だと考えております。そのためにも、このふるさと苫小牧のこれから目指すべき方向をどのように設定していくのかということは、大変重要な課題であると認識しております。次の時代にもっともっとたくましい苫小牧を渡していきたいという思いを強く持っています。ぜひ皆様方のお知恵、あるいは情熱

をいただきまして、次の世代のためにもしっかりとした構想、一番上位の計画になりますので、ぜひこの策定に向けて貴重なご意見をいただきたいとあらためてお願いを申し上げたいと思います。

人口減少ということは、財政のパイが収縮するということを意味します。したがって、今まで以上に効率的かつ効果的な税の使い方に知恵を絞っていかなければなりません。そのためにも、しっかりとした構想、そして計画、その計画に基づいた税金の使い方ということをこれまで以上に意識して取り組んでいくことが求められている時代であります。そうした観点からもこの構想、あるいは計画の重要性は、人口減少時代であればあるほどニーズが高まっていくと認識いたしております。是非そうした観点からも、ご苦勞をおかけしますが、重ねて何卒よろしくお願いを申し上げます。

よろしく申し上げます。

4 委員紹介

5 審議会の設置目的

＜事務局より説明＞

質疑なし

6 会長・副会長の選任

会長に石田委員（苫小牧商工会議所副会頭）

副会長に佐藤委員（苫小牧駒澤大学教授）

が 全会一致で選任。

■会長挨拶

ただいま、会長に指名いただきました苫小牧商工会議所の石田です。

先ほどからいろいろと事務局からも話がありましたが、今、いろいろな意味で苫小牧市も人口減少や高齢化、社会環境の変化が進んできている状況になっています。また、その中で市民の意識の変化も大きく変わってきていると思います。その中で今回苫小牧市のまちづくりの目標、方向性を示すことは大変重要な役割ではないかと思っています。精一杯会長の役割を果たしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

7 諮問

8 議事

(1) 策定スケジュール等

<事務局より説明>

質疑なし

(2) アンケート結果から見る現状について

<事務局より説明>

質疑

●A委員

アンケート結果を正確に読み取りたいと見ていたが、資料3-12 ページの「苫小牧市の将来の都市イメージ」については複数回答での質問か。

●事務局

複数回答の質問です。

●A委員

回答数の限定は無い質問か。

●事務局

2つまで選んで回答です。

●B委員

19 ページに人口ビジョンの人口想定が示されているが、人口の転出入の直近の状況や自然増減について示していただきたい。いろいろデータのとり方はあろうと思うが、転勤など要因を知るためにも転出入の状況を把握しておきたい。

●事務局

まず人口ビジョンの人口想定条件について説明します。人口ビジョン策定の際に、転入転出については今後拮抗を目指したいということを前提として策定しているものです。これまでも苫小牧市においては、転入転出が拮抗している状況ではありますが、ここでは転入転出のプラスマイナス0を基本としています。(20代、30代は1%転入超過で算出。)そして出生率については段階的に年々引上げ、最も高位では2.07、中位では1.9、低位では1.8を目指すという3段階で人口想定を試算しています。

●事務局(補足)

転入転出プラスマイナス0を目指して進めていきたいが、人口ビジョンを策定するに当たっては、転入転出の推移など現実的な資料も別途あります。

●会長

次回までにそれらの資料を提示してください。

●C委員

市民アンケートについて、年齢別の回収状況はわからないか。それによって回答結果の

違いも多少あるのではないか。

●事務局

年齢層については、30歳未満、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、それ以上に分けて対象を抽出しています。

●事務局（補足）

年齢層で偏らないように抽出し、回答いただいています。

(3) 基本構想案について

<事務局より説明>

質疑

●会長

今、説明にあったように、基本構想は、基本計画に結びついていくことになるので、大変重たいものだと思っているが、質問等があればお願いします。

●B委員

具体的に掘り下げた検討に当たって、この組織の下部組織として作業部会のようなものを設置する考えはないか。

●事務局

今のところ、そのような考えはありません。あくまでこの会は条例で設置しているもので、基本構想部分を定めてもらうために設置しているものです。

基本構想案が決定したのち、各細かい施策について市で検討し、パブリックコメントや議会に相談するなどして最終的に全体が固まる流れになっています。

●D委員

資料3の22ページに、過去の基本構想が示されているが、これまでの計画の総括はないか。

●事務局

現行の計画では、153の施策があります。それについては、毎年、施策評価を実施しており、その結果については、市のホームページで公開しています。28年度の評価の概要としては、施策の進捗状況として「計画どおり進んでいる」が136施策（88.9%）、「少し遅れている」が17施策（11.1%）となっており、現計画については定めたことに対して順調に進んでいると判断しているところです。

●D委員

ということは、その 88.9%の部分は、あまり議論しなくても良いということか。

●事務局

その点も含めて、各課においては現状を踏まえた上で新たな総合計画に向けてはどのような課題、方向があるかを踏まえて、これから計画に落とししていくという流れになっています。

●会長

この基本構想自体、過年度の部分の施策も含めて、重複しても構わないと思う。それらを加味したうえで、来年度以降新たな基本構想として取り組まなければいけないものを明示してあるということによいか。

従来の実績値も含めて、継続して取り組まなければならないことは、この案の中に入れてあるという考え方だということですので、そのような視点で見ていただければと思います。

●A委員

今、ここで提示された案をもとに審議し、決まったものはパブリックコメントにかけ、そこで出された意見を踏まえ最後修正していくという理解によいか。とすれば、ここである程度細かな意見を出しておいた方が良いということか。

●事務局

もしこの場で意見があれば出していただき、それをどのように反映できるか事務局で検討し、パブリックコメント案を作ることになっていますので、ご意見をいただきたいと思います。

●A委員

普段、言葉の使い方や表現に細かに注意を払っています。意図をもって文章を作っても、表に出た段階で言葉は一人歩きし、当初の意図と違ったように受け取られるということもあります。そうした中で市としての考えを明確に示す必要があると考えます。その視点で考えると、案の中でもう少し表現を分かりやすくしたり、統一した方が良いと思われるところがいくつかあります。

まず「理想の都市」の文章について、現行のものは、どのような都市を目指すのかが分かりやすい表現になっているが、今回のものでは、「未来に向かって挑戦し続ける」という部分で具体案が見えません。どこを目指していくのかを分かりやすくした方が良いと思います。また「快適な」という表現も分かりづらい。それから現行のものは、「安心・安全」という表現になっているが、今回は「安全・安心」となっていて、何か意図があって変更したのでしょうか。

●会長

ただいまの部分については、ご意見として伺っておくということによろしいですね。

●事務局

「安全・安心」については、確かにこれまでとは変更になっています。担当している部署から、「安心」の前にまずは「安全」がある、「安全」が確保されて「安心」があるという見解で今回は順番を入れ替えています。また、そういうことから担当課の名前も「安全安心生活課」となっています。

●E委員

人材育成がどこに含まれているのかを見ると、学校関係のところには人材育成という言葉があります。しかし、人間環境都市を作るためには相当の人材育成をしていかないと実現できないものもたくさんあると思います。都市を作るためには地域が関わっていく部分もたくさんあり、そのためには人材育成を謳っておく方が良いのではないかと思います。どの章にも関わってくるので、前文で位置付けても良いのではないかと思います。

●会長

基本構想案についての質問ということだったが、すでに意見交換に入っているので、次の議題の意見交換に進ませていただきます。

これまでの事務局の説明で、総合計画の位置づけ、策定スケジュール等、審議会の役割が把握できたと思います。今後この基本構想案に基づいて、基本計画を含めて市の将来像が見えてくることになるので、提示された基本構想案自体について専門的なご意見があれば、いろいろと反映させるためにご意見をお伺いしたいと思います。

基本構想案等全般的に渡って、ご意見があれば発言をお願いします。

●F委員

事務局案の7ページ、第2節第1、2地域で支え合う福祉社会の形成の(2)で、「地域包括ケアシステムの実現」との記載があるが、今年の6月2日に「地域包括ケアシステム強化法」(地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律)が公布され、この中では「地域共生社会の実現」という言葉に変わっている。そこで、「地域包括ケアシステムの実現」を「地域共生社会の実現」に変えた方が良いのではないかと考えます。

●事務局

担当課に確認の上、適切な表現を検討し、対応します。

●G委員

人口について、国の試算では2060年には11万人、市の試算では14万人ということで

3万人の開きがあるが、この点についてはどのように考えているのか。

16万人後半というのは、大きいのではないか。ここが違ってくると税の問題やサービスの問題が変わってくるので、将来人口の算定基準のポイントを聞かせていただきたい。

●事務局

国の試算については、もしこのまま市が何もしなかった場合には、2040年には14万4千人、2060年には11万3千人になると国立社会保障・人口問題研究所が試算したものです。これを市としてあらゆる施策を使って、2040年に15万人、2060年には13万人を維持したいと、「苦小牧市人口ビジョン」で定めています。その経過の中で今回の総合計画の目標時期、来年から10年後には16万人台後半になると試算しており、そこを目指していくとしています。

●会長

人口想定について、仮に10年間の過程の中で人口想定と大きくずれ、国の推計に限りなく近くなった場合には、この構想自体見直しを行うといったことを考えているのか。

●事務局

前提として、基本構想は10年間、基本計画は5年ごとに見直そうとしています。そこで、人口想定のがずれが小幅なものにとどまるのであれば5年後の見直しで反映できるが、会長が言われたとおり大きな差が出てくるようであれば見直しが必要になると思います。ただし、今のところはそうならないように頑張っていきたいということです。

●会長

基本構想案の中にも、人口を減らさないためにどうしていかなければならない、ということも記載されているので、それらを具体的に進めていくことで人口水準も市が考えているようにいけばよいと思います。

●G委員

事務局案の7ページ、第2節第1、2地域で支え合う福祉社会の形成のところで、現状として、地域が高齢化してきていて、町内会自体があと5年もすれば成立しなくなる可能性が高い。それも1つ2つの町内会だけのことではないと思う。そうなると住んでいるところで深刻な問題が起こる。今、市の施策で町内会に委託しているものもあり、そこが崩壊しつつあり、崩壊してしまった場合の対策はどう考えているか。

●事務局

ご指摘の点は市全体として認識しているところです。基本構想は向こう10年の市政を総合的かつ計画的に推進するための施策の方向を明らかにするというもので、そのために今のご指摘も含めて様々なご意見をいただいているところです。それに基づいて5年ごとに

基本計画を作ります。さらに基本計画に基づいて実際に何に取り組むのかという実施計画を2年3年に分けて作り、計画を見ながら進めていきます。

先ほどの人材育成に関するご意見についても、教育だけでなく、第2節第2、1(8)の産業の部分でも触れています。雇用面では人手不足が全国的に深刻な状況で、そのためには人材育成が必要とし、教育面での人材育成、雇用の面からの人材育成と両面から記載しています。

今いただいたご意見や先ほどのご意見を含めて、基本構想として、施策の方向をどのように定めるかということで皆様からご意見をいただきたいと思います。

●B委員

以前勤めていた経済団体で一般の方を対象にアンケート調査を実施したところ、「自分が住んでいるところで何を重視するか」という問いに対し、1位は「仕事があること」、2位「医療・福祉の充実」、3位は「交通の利便性」という結果だった。仕事があるということが重要。高校生のインターンシップに関わったこともあり、以前は事業所を紹介し、そこで生徒が職場体験をするというものだったが、その後、生徒が将来どのような仕事に就きたいと考えているかという要望を聞き、その要望に応じた企業で職場体験をしてもらう方法に改めた。そうすると企業側も真剣に受け皿として考えて、地元就職率が上がったという実績がある。今の苫小牧の状況はよくわからないが、小学校の高学年(5・6年生)の職場体験を推進した方が良いと考えている。自身の孫が学校である職場見学をしてきたということで、その会社があったということを知らなかったが、参加してみたら苫小牧にこういう会社があったと気づき、将来そういう仕事がしたいと言い出した。小学生から職場体験、インターンシップを推進することで、将来の就業人口の増加に寄与するような気がする。苫小牧にも数多く企業があるが、知らない企業も数多くあると思う。そういう企業も若い学生から認識させて、将来の就業人口につなげるということも必要だと思う。

●事務局

今ご指摘の部分は、地方創生の関係からも重要だと考えています。

苫小牧だけでなく、今、人材育成が非常に重要です。苫小牧市では以前から就業チャレンジや女性復職支援、若年雇用支援、職場定着支援などに取組んできています。北海道は職場の離職率が非常に高く、高卒者の場合、採用後3年で半分近くが辞めてしまい、大卒者でも4割近くが辞めてしまうということで、職場定着支援に取り組んできています。

苫小牧はいろいろな産業の集積があり、特に2次産業、ものづくり、物流といった産業都市である。そうした産業都市にあって、企業はリーマンショック等があった時には、雇用のミスマッチがあったが、現在は逆に売り手市場になって、企業がますます大変になっ

ている。そこで市としては職場に定着させるために、高校2年生の段階からいろいろな企業と接触する機会を設け、また子育てが終わった女性が復職できるような取り組みを行っています。中小企業が職場に定着させるために、例えば更衣室を整備するなど社員のための施設整備に対する支援を行っています。目的としては人材を確保定着させるという意味合いで、そういった取り組みは特に重点を置いてここ数年前から取り組んでおり、今後も取り組んでいかなければならないと考えています。

●A委員

今、小中学校では、各校それぞれにキャリア教育の全体計画を持っています。各教科や様々な場面で小学校は1年生から6年生、中学校は1年生から3年生まで、どのように将来に結びつくキャリア教育を進めていくかを、学校独自で充実させているところです。

今後もこの基本計画に則って教育が充実されていけば自ずとそれらの面も人材育成につながっていくと思います。

●H委員

キャリア教育は小学校から始まっていて、A委員から話のあったとおりです。離職率が非常に高いということで、体験型、キッズニアのようなものを、本学を会場にしている、それぞれのところで模索しながらしているんだろうなということは感覚で分かるが、今後の方向性の中で構想、計画と分けて組み込んでいくのには微妙なところまで踏み込んでいかなければならないと思っています。

本学で中学校のインターンシップとして受け入れる場合は、何をしたいかと何ができるかということで、特別養護の図書に興味があるとか、学校の中のどういうところに興味があるかということで、非常に広範囲に渡ってキャリアを体験する機会になっています。今後そのところまで踏み込んでいく必要があろうかと思っています。

●I委員

少子高齢化で、スポーツを行う子どもたちの人数が減ってきています。スポーツを通じての人間形成といったことを進めていく必要がある中で、いろいろな同好会や連合会などと協力しながら、競技人口減少に歯止めをかけるといったことも進めていかなければならないと考えています。また、スポーツをやるうえで最終的にどこを目標にするか、その受け皿が苦小牧にはないということも、スポーツ人口の減少につながっているところがあるのではと思います。

●会長

皆さまからいろいろとご意見を伺いました。

基本構想案を見て、若い人たち、地元出身の方の定着が大変重要ではないかと思う。企業に地元出身者が勤めてもらえないという現状がある。苫小牧の企業に勤めている方のどのくらいの割合が苫小牧出身者なのかと大変危惧している。苫小牧で生まれて育って、これからも苫小牧に住み続けたいというまちづくりをしていかなければならない。そうすることが人口減少に歯止めをかけるという点で課題の一つだと思う。また、それには、働ける場があるということが必要になってくる。その意味で、市が進めている企業誘致も含めて、安心して働ける環境にしていくということが若い世代の定住促進という意味では大変重要になると思います。それらを強く打ち出せないかという考えを持ちました。

また、北海道は、インバウンドも含めて観光と食と言われているが、苫小牧の場合、通過都市ということで、最近ではホテルも満室の日が多くなっているようではあります。ただ泊まるだけということです。苫小牧はいろいろとインフラがあり、ポテンシャルが高く、まだまだ活かせるものがたくさんあると思いますので、そういうものを活用し、賑わいの創生ということもぜひもう少し強く打ち出していきたい。

気になるのは地域の核となる駅前、中心市街地が本当にこれでいいのか、ということです。アンケート結果にも、駅前や駅通りの活気がないということが指摘されています。魅力ある商店街づくりとは一体何なのかと考えると、やはり若い人がビジネスチャンスをつかんで事業を起こせるような環境をつくる必要があります。創業支援について補助も含めて取り組んでいく必要があると感じている。

また各種施策について、市民への情報発信の充実が重要だと思うが、市のホームページや広報誌だけで十分なのか。今の若い世代の人たち向けの SNS を使った情報発信も含めて様々な手段による情報発信の仕方を検討する必要があるのではないかと感じています。それらも含めてぜひ次回の修正案の中でいろいろと考えていただけるとありがたいと思っています。

長時間に渡りいろいろとご意見をいただきましたが、今までいただきましたご意見等につきましてはそれぞれ市の内部で検討いただき、修正案の取りまとめを進めていただきたいと思います。

本日の議題については、以上で終了いたします。

事務局から連絡等あればお願いします。

9 その他

●事務局

たくさんご意見をいただきまして、大変ありがとうございます。この場で言えなかった点、帰られてから気が付いた点等があれば、事務局にお寄せいただければと思います。必ずしも基本構想の部分で反映できるとは限りませんが、基本計画や実施計画では反映できることとなりますので、ご意見をいただければと思います。

●事務局（補足）

基本構想は総合計画の最初の部分で、詳細な事柄については、基本計画や実施計画での位置づけとなります。ここでいただいたご意見やパブリックコメントでいただいた意見、この審議会から答申をいただくものについては、市役所内全庁的に共有します。それに基づいて市役所内各部が今回の基本計画に載せる施策、具体的な実施計画に載せる事業につながっていくことが最も重要なことで、基本構想は大きな括りとはなりますが、具体的な意見をいただくのも大変ありがたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

●事務局

<次回の開催について説明>

10 閉会